

## 第3学年美術科「現代アートに挑戦」(鑑賞・共同制作)

注：学習指導案から筆者が概略をまとめたもの

## 1. 授業の構想

中学3年生は理論的にものごとを捉え、抽象的概念を理解できる年齢となってきた。そこで、本授業では概念芸術としての現代アートの鑑賞及び鑑賞のための現代アートの共同制作を行う。

本題材は、現代作家の作品をいくつか鑑賞するところからスタートし、「現代アートとは何か」という問いの答えを各班の共同制作を通して探求し、最終的には学級全体で回答を捻出していく活動展開となっている。

本授業の特質は、共同制作を通して他者とのコミュニケーションを図り、自己の意志と他の主張との兼ね合いを学び、それによって、一人では発揮できない自己の能力を生み出し、各人の能力が一つの作品に結実していく様子を体験させる点にある。

中学校学習指導要領では「表現及び鑑賞の指導上の配慮事項」の中に「互いの個性を生かしあい協力して創造する喜びを味わわせるため、適切な機会を選び共同で行う創造活動を体験させること。」というように共同制作のすすめが明記されている。その理由が、学習指導要領の解説書では、美術は個人の表現行為だけになり他者との関わりが少なくなりがちであるが、現代生活において、協力し合う体験が少なくなってきたので、美術の中で共同で行う創造活動を体験させる意義が高まってきていると述べられている。

次は本授業で試みられた、他者との関わりを推進させるための工夫点である。

- ①あらかじめ共同制作上の役割内容を決めておき、班員全員が制作に関わる状況をつくる。
- ②役割の中に制作記録メモ係をつくり、作品の完成までの過程を記録させる。各班で出たアイデアやその発言者を記録させ、コミュニケーションによってよりよい作品ができあがることを顕現させる。
- ③「現代アートとは何か」を全員で考える場を設定し、集団の力を集結する。

## 2. 題材名 現代アートに挑戦～鑑賞及び共同制作～ (第3学年・美術科：鑑賞・共同制作)

## 3. 題材観

本題材では現代アートの鑑賞学習を行う。共同制作は鑑賞を深化させるための活動である。現代アートは、中学生にとって難解で戸惑いがちな作品が多い。いわゆる名作とは異なり、その価値が見いだせないのが自然な思考の流れであろう。しかし、現代アートは今を生きる人間の姿を反映したものであり、これからの社会を担っていく中学生との関係は断ち切ることはできない。現代アートは、新しい芸術の捉え方や芸術との関係を私たちに伝えてくれる。そこから学び取った新たな価値意識は自己の視野を広げ、生活をより豊かにしてくれるはずである。…以下、略

## 4. 目標

- 現代アートについて学び、その理解を他者とのコミュニケーションにおいてより高める。
- 写真の特性や基本的な撮影技術を理解し、協力してよりよく作品を撮り取る。
- 各グループの作品を鑑賞し合い、各表現内容と表現形式についての見解を広げる。

5. 指導計画 ( 全2時間 )

- ①現代アート作品を提示し、事前に意識させる。 … 2週間前
- ②現代アートについての知識を与え、制作の糸口を見つけさせる。 … 1時間目
- ③写真についての興味をもたせ、よりよく作品を残す意欲付けを行う。 //
- ④各グループで現代アート作品を制作させ、写真に収めさせる。 //
- ⑤各グループの作品を鑑賞させ、より現代アートに対する見識を深めさせる。 … 2時間目
- ⑥現代アート作品鑑賞や共同制作、各班の写真作品から分かったことをプリントにまとめる。 … 事後指導

6. 学習の展開 (※活動の流れのみ記述)

学 習 の 流 れ	学 習 の 活 動
○事前学習 2週間前	①現代アート作品を鑑賞する。
○学級全体での現代アート鑑賞 10分	②現代アートについての説明を聞いたり、各自の意見感想を発表したりする。 ・『泉』デュシャン プロジェクター ・授業者の作品 //
○共同制作の理解と役割分担 10分	③各班に分かれて役割を決める。 ・記録メモ…記録用紙提出 2名 ・写真撮影…デジカメ管理 2名 ・作品発表…作品発表(3分で発表) 2名 ・アートリーダー…現場の責任者 2名
○制作と写真撮影 40分	④校舎周辺での現代アート作品制作を行う。 ・主たる材料…スリッパ、教科書、椅子 その他必要に応じて調達する
○各班の作品紹介 15分	⑤教室に戻って、各班の作品を発表する。 ・プロジェクター
○各班の作品鑑賞 15分	⑥現代アートとは何かを話し合う。
○学習のまとめ	⑦各自の学習を振りかえる。